Chao通信

Vol.8 2022.12

児童思春期専門外来(Child adolescent outpatient)を受診されているご家族様、診察の待ち時間や日常の隙間時間にお気軽にお読みください。

特別企画

ジブリで学ぶ子どもの心③

Chao通信の特別企画「ジブリで学ぶ子どもの心」第3弾。 第2弾<千と千尋の神隠しーなぜ千尋の両親は豚になった のか? 千尋の世界が怖い理由->の待望の続編です。

今回も臨床心理士/公認心理師の岩倉拓先生と一緒に謎解きをしながら、ジブリ作品を通じて子どもたちの心の成長について考えていきましょう。

< 千と千尋の神隠し> のつづき ハクはいったい誰なのか?



千尋は無気力で拒食症?!

さて、「千と千尋の神隠し」の続きです。

前回は、千尋の不機嫌さと無気力は、親の身勝手への怒りや不本意な引越しへの絶望と読み解きました。

千尋は、言わば生きることの希望を見失い、無気力になっています。「となりのトトロ」の冒頭も引越しのシーンからはじまるのですが、サツキとメイは新しい土地や家に希望と好奇心をもって楽しんでいますが、千尋は、新しい街にも学校にもまったく興味がないようです。

また、サツキ、メイに比べると千尋の手足が細すぎることも気になります。千尋は線が細くやせっぽちに描かれていて、実際に、父母が食べている食事を断るシーンもありますが、食も細そうです。食べることを抑制し、拒否する拒食という症状がありますが、その傾向があると言っていいでしょう。

ジブリ作品には、「ナウシカ」や「もののけ姫」などエネルギッシュな女性の主人公が多いですが、千尋はジブリ史上もっとも無気力で、やせっぽちな主人公なのです。

その観点で見ると、前回も述べた「ジブリ史上最も塩対応の親」と、「ジブリ史上最も無気力な主人公」が、千と千尋の神隠しでは描かれていると言えましょう。



異界に迷い込むこと

千尋たちが迷い込んだ湯屋のある世界は、川に隔てられた世界であり、黄泉の国のような不思議な場所です。

心理臨床学の観点からは、これは夢の世界であり、千尋のこころの中の世界とみることができます。

夢では願望が実現されますから、千尋のこころに潜んでいた怒りによって、お父さんとお母さんは豚になってしまい、千尋はひとりぼっちになってしまいます。

「夢」には"夜見る夢"という意味と"願望としての夢"という2つの意味がありますが、千尋が現実世界において希望を失っていたからこそ、この湯屋の世界に迷い込んでしまったのは必然だったとも言えましょう。

現実に戻る道は閉ざされ、千尋はこの異界で生き抜かなければいけなくなります。これが「神隠し」ということですね。

現実の世界に戻れるか?そして戻りたいという意志をもてるかどうかが、神隠しから戻ってくるために必要なことなのです。

実は、このように異界に迷い込む物語は古今東西たくさんあるのです。「ナルニア国物語」は家の古いクローゼットの向こう側に異界が広がっています。「ハリーポッター」もそうです。

M.エンデの「ネバーエンディングストーリー」も異界に行って帰ってくる物語です。日本でも、たとえば村上春樹の小説にも異界である「向こう側」のテーマが繰り返し出てきます。

いつのまにか違う世界に足を踏み入れ、不思議な体験をして帰ってくるという物語を瀬田(2020)は、「行って帰る物語」と呼びました。子どもの頃、まだ空想や夢の世界と現実の垣根が低い頃、私たちは空想の世界、たとえばホビットやオークや魔女のいる世界、あるいはトトロや妖怪がいる世界が身近です。毎晩、夢の中、あるいは本の中で、怪獣や魔女と戦ったり、ユニコーンや動物と話したり、と大冒険をしていたわけです。

夢の世界では、その人のこころの部分がキャラクターとなって登場します。湯婆婆は「働く」こと、すなわち規範や義務を示し、 銭婆婆は保護的な母親、坊は赤ん坊の甘えたい部分、カオナシは貪欲な欲望と寂しさ、それぞれが千尋のこころの部分のメタファーであると考えられます。千尋の異界での冒険は、彼女がこれらのキャラクターで表される社会的規範や、自分の甘えたい部分、そして自分の貪欲さや寂しさとどのように相対して、折り合っていくかの冒険なのです。

拒食からの回復 ~おにぎりの美味しさ~

前半のハイライトは、湯婆婆との対決を生き残って、湯屋で仕事を得た千尋がハクにもらったおにぎりを食べるシーンです。 涙を流しておにぎりを頬張る千尋、みなさんの印象にも残っているのではないでしょうか?

これは、無気力だった千尋が自ら仕事をする喜びを知ること、そして拒食気味だった千尋がおにぎりの美味しさを感じる、その実感が私たちに伝わってくるからです。この時千尋が陥っていた心理的な問題、無気力と拒食の問題が一歩前進します。千尋は働くことの充実を知り、その上でお腹が減った感覚を知り、食事のおいしさと大切さを実感しているのです。

これらは本来当たり前のことなのですが、私たちも時に見失い がちな生きることの基本です。

物語の前半は、千尋が「働く→疲れる→食事をする」という当たり前の実感を取り戻していく過程なのです。

さて、働くこと、食べること を取り戻した千尋の 次のテーマはなんでしょうか?



ハクは何者か?

次の課題であり、現実世界に戻るための鍵はハクの存在と関 わっています。

ハクは千尋にとっていったいどんな存在なのでしょうか? ハクは自分の名前を忘れていて、龍でもあり、人間でもある、 という不思議な存在です。おにぎりをくれるなど、たしかに千尋 の味方なのですが、湯婆婆の前では必ずしもそうではない、と いう複雑さを持っています。

また、ハクは「小さい頃からそなたを知っている」と言っています。しかし、なぜ知っているか本人もわかっていないようです。 そして千尋と同じく、ハクも湯婆婆に名前を奪われ、奴隷になっています。ハクも自分の本当の名前や役割、記憶をなくして異界をさまよっていたのです。

ハクは、川の神様ということになっていますが、千尋がまだ記 憶がない時、川に溺れかけた千尋を救った存在であり、おそら く千尋の兄だったのではないでしょうか?

宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」でカムパネルラが川で溺れた友人を救って自らは死んでしまうという話のオマージュと言えましょう。これはYouTubeで岡田斗司夫さんも同じ説を提示していますが、心理臨床の観点から考察して私もそう思います。

千尋が記憶がない時に起こった事件なのですが、もしかすると それ自体がメタファーであるかもしれません。少なくとも千尋 には兄がいて、千尋が記憶のない時になんらかの理由で死ん

でしまったという家族の秘密があった、と考えることができます。 それゆえにハクは「小さい頃からそなたを知って」いて、 しかし、そのことをハク自身も忘れているのです。



千尋の恩返しとして生きる意味

千尋は自らが引き入れてしまったカオナシの大暴れ、つまり 欲望からの誘惑をキッパリと断ります。

そして、ハクは銭婆婆から印鑑を盗んだことによって死に瀕 しています。

千尋は、窮地を救ってもらったハクへの思いから「ハクを助け たい」という自分の意志をはっきりと自覚します。

この時、無気力でやせっぽちだった千尋の頬は引き締まり、 自分の意志と考えをもった頼もしい存在に成長しています。 そして、帰りの電車がない鉄道に乗り、ハクを助けだします。 その救出の帰り道にハクは自分の名前を思い出し、千尋を 救った時の川のシーンが蘇ります。裸の赤ん坊が千尋であり、それを救った手はハクの手だったと考えられます。

それが、千尋が今生きていることの理由ですし、原点だったと言えましょう。夢の中で千尋は兄に再会し、兄を成仏させたと言えるのではないでしょうか。

つまりそれは、千尋が抱えていた無意識的な生きていることの罪悪感を見つめ、乗り越える作業、トラウマ・ワークだったのです。そこには「愛すること、愛されていること」の再発見という重要な意味があります。

それまでは、千尋は自分がなぜか愛されていないという感覚を持っていましたが、その背景には兄の犠牲の上で生きている罪悪感を抱えていた、と私は考えます。

私たちは、気付かぬうちに 誰かのおかげで生きている のですが、それに気付かな いまま生きているとも言えま しょう。「愛情」も、時に見失 われてしまうのです。

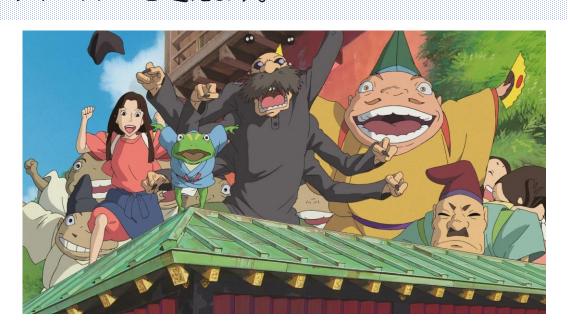


荻野家が抱えるトラウマ

子どもは、無意識・意識的に家族や両親の問題を引き受けています。こうして、兄の死という事件があったことを考えると、父親もただ俗物だったのではなく、荻野家の悲しい出来事を吹き飛ばすために明るく振る舞っていたのでしょう。そして母も、ただ冷たく「塩対応」なわけではなく、息子を失った悲しみがあり、妹である千尋を恨むような無意識の気持ちから、冷たくあしらってしまっていたのでしょう。それが「ジブリ史上の塩対応」の理由だったのです。それ故に千尋は、愛されていることを見失っていたとも言えましょう。

このように荻野家は、避けることができなかった痛ましい事件、心理臨床学で言えばトラウマをそれぞれが背負っていたのです。兄の死を両親は千尋に秘密にしていたのでしょう。 千尋は自力でその答えに辿り着き、自分が誰のおかげで、誰の愛故に生きているのかを知ることができました。 この神隠し事件は、千尋にとっては生きる意味を探しあてるために必要な"こころの旅"だったのです。

「兄」であるハクへの感謝と愛を知った千尋は、豚の中から愛すべき父親と母親を見分けることができて、帰り道が開けます。怪しかった湯屋一同、あの湯婆婆さえも、千尋の成長を喜ぶクライマックスを迎えます。



希望を取り戻した千尋のその後

こちら側の世界に帰還した千尋の髪には、銭婆婆からもらった髪留めが光っています。

ここで物語は終わりますが、この「行って帰る」大冒険を経た 千尋は、自分の生きる意味と「愛する/愛される」ことを知っ て、一回り成長しました。

それは、「千」になっていた千尋が自分の両親からもらった名前を取り戻し、そして荻野家の一員として生きていくことを選んだこと、と私には感じられます。

帰還後の千尋は、きっとあの父親とあの母親を理解し、支える存在となり、荻野家の希望となって生きていく姿が想像できます。

悲しみも背負っていきますが、それゆえに強くなった千尋は、 新学期には引き締まった表情で転校先で生き生きと自己紹 介をしているはずです。

「荻野千尋です。よろしくお願いします!」



編集後記

<千と千尋の神隠し> 後半の謎解き、いかがでしたか? ハクはいったい何者なのか?を読み解く中で、千尋にとっ て必要なものは何だったのか、子どもたちの成長にとって 必要なことは何であるのかを知る手がかりを得たように 思います。

この冬休み、改めてまた映画を観なおしてみたいですね。

Chao通信はしばらくお休みの期間があり、1年ぶりの刊行となりました。

去年の時点で「もうしばらくの辛抱」と思っていたコロナ渦ですが、今年の冬もまだ第8波の只中にいます。

「まだまだ辛抱」の状況が続くかもしれませんが、千尋が苦しい体験を経て強く成長したように、子どもたちがこの大変な時代を生き抜いた先に、大きな成長があることを願うばかりです。

不定期刊行ではありますが、次号のChao通信もまた楽しみにお待ちいただければと思います。 良い年末年始をお迎えください。



イラスト出典: スタジオジブリ 画像提供

Chao通信Vol. I ~7は、聖マリアンナ医科大学病院 児童思春期専門外来ホームページで閲覧できます
https://www.marianna-

u.ac.jp/hospital/kanja/specialty/specialty_I5.html。



寄稿:岩倉拓(臨床心理士/公認心理士)

編集:聖マリアンナ医科大学病院 神経精神科

児童思春期専門外来

臨床心理士/公認心理師:塚原·中村·根本·越智